

# こすもす便り 第13号 (2017年11月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

## ★ ご挨拶

### ★ 10月の外出から（雨天続きの外出日）

10月の外出日は、天候の悪い日が多く、外出先の変更や中止などを余儀なくされることがありました。社会生活の中では当たり前の「臨機応変」「予定は未定」ということを実際に体験する絶好のチャンスと捉え、選択できる体制を取ることにしました。曇りの日は、途中で雨になると遊べなくなり、すぐに帰ってくることを説明して、それでも行きたい子ども達は外出し、「行かないで室内で遊んでいたい」という子どもの選択を尊重することにしました。友達の動向を見たり、相談しながら、自分の気持ちをどちらかに決めていきます。「行こうかな、やっぱり残る」と迷いに迷って決める子ども、「行く」と即決する子ども、そして、残って何をするか相談して、天秤にかけて「残る」事を決める子どもなど様々ですが、みんな真剣に考えていました。10月6日の秋休みは雨。ルピナスパークの予定を翌日に予定していた博物館と変更する事にしましたが、「公園じゃなきゃ行かない」と言う子どもと、「博物館がいい」という二つに分かれました。そこで、しっかり考えてもらったうえでもう一度聞くと、お出かけと残って室内で遊ぶという二つのコースに分かれて行動する事になりました。その結果どちらからも全く不満の声は上がらず、むしろ自分で選択できたことで、それぞれの活動をより楽しんだようでした。次は10月2回目の土曜日。天気予報では午後からの降水確率60%ということで、また選択を提案したところ、男性のボランティアさんが来ていたこともありほとんどが残る方を選択しました。10月3回目の土曜日は、宮崎育成牧場へ外出の予定でしたが、今回も雨のぱらつく天候でした。今回は全員が外出を選択しました。馬とのふれあいが出来なかったことを残念だと言ってはいましたが、「また来たい」と次回に期待する言葉がほぼ全員から聞かれました。10月4回目の土曜日は台風の影響で朝から雨でした。もちろんこんな日の外出は中止です。これまでは、期待と現実のギャップで「退屈～」「ひま～」「何すれば良いの～」と不満の声が上がったものですが、現実をより楽しくすることに興味が出てきたのか、いつもの遊びにアレンジを効かせ、自分達で考えた遊びで長いはずの一日を退屈せずに賑やかにそして穏やかに過ぎていきました。選択できることが子ども達にとっては、これほど満足できるものなのですね。大人が考える以上に子ども達は強制の中で生きているのかもしれない。

裏に続きます

## ★ ストップのタイミングと距離感

毎日元気だったA君ですが、最近元気がないので話を聞くと、友達から仲間に入れてもらえないと言うのです。Aくんには、仲良くしたいBくんがいます。Aくんと仲良くするためには、後を追いかけて、じゃれたりすることが一番良いと思っていました。なぜなら、A君はボディタッチをしてもらう事が大好きで、特にくすぐってもらいと幸せな気持ちになるそうです。だから、自分がやってもらうと嬉しいことを大好きなB君にやっているだけなのにどうして「あっち行け」と仲間に入れてもらえないのか理解出来ない様子でした。B君も最初は面白がって一緒に遊んでいたようです。じゃれ合いから追いかけてこまでは楽しかったようですが、そのうちその遊び方も飽きてきて、何となくやめようと言う気持ちになり、Bくんも皆もやめたのですがAくんはずっと追いかけるのをやめず、相手にしないとますます追いかけて最後はタッチする力が強くなり「痛い」と言ってもやめないで「こっち来るな」と大声で言わないと終わらない状況だと言うことが解りました。そこで、Aくんの行動を客観的に見ていくと、対人関係が解る領域（人になれなれしく話しかけたり近づきすぎたりしない）と、相手の状況や気持ちが分かる領域（自分と相手の興味、関心が異なることが分かり、受け入れられる）が弱いことが改めて分かりました。Aくんは楽しくなるとつい突っ走ってしまう元気な子どもです。Aくんの思い込みの行動はそう簡単には改善できません。Bくんは自分が嫌なことをされて、嫌だと伝える時に「やめて！」と乱暴に言います。Aくんにはそれが面白がっているように見えてしまうので、何度も繰り返してしまうのです。Bくんに落ち着いてゆっくり「やめて」と言ってもらえると、ようやくいつもの違いに気づき、Aくんにも、Bくんの穏やかなストップの声が少しずつなら届くようになりました。ゆっくり積み重ねることで身についていくものと思われまます。人との距離は、家族、親しい友達、あまり親しくない友達、異性の友達など相手との関係で変わることを学んでいくには、日常の遊びや生活の中では腕の一本分がちょうど良い距離だという感覚を肌で学べるようにくふうすることで、近づきすぎが解るようになっていくのではないのでしょうか。

## ★ 11月の共同制作は

11月は「秋の風景」です。この表題は大人でも統一したイメージは持ちにくいものです。人がそれぞれに経験した生活の中で感じたことや感動したことなどが違うので、どうしても代表的な物に集約されてしまいます。子どもたちが経験したことで、秋として残っているイメージはどのようなものなのでしょうか。未知の物に出会える期待が膨らみ、とても楽しみです。始めに「果物は何が好き？」と子ども達に聞いてみると、みかん、りんご、ブドウ、いちごなどたくさんのお答えが出てきたので、次に「今、お店で売っているのは？」という質問に、「柿」「ブドウ」「なし」などが出てきました。そこでお店で売っている果物を切り絵で作る事にしました。誘導になってしまいますが、手がかりが必要なのであらかじめ書いておいた線に沿って切ってもらい、それを広げてもらうと「わあー！ブドウ」という感動の声があがり、銀杏や紅葉など次々と出来上がっていきます。すると「自分で書いても良い？」と子ども達のオリジナル切り絵が生まれていきます。毎週1回の作品作りは、そういうやりとりの中で味わいのある秋の風景として出来上がりました。

【発行】放課後等デイサービス こすもす 管理者 中島通子

〒880-0916 宮崎市大字恒久4942-4

☎ 0985-72-3869 FAX-72-3365

携帯電話 090-8841-7024

E-mail patorihoudei@yahoo.co.jp